

特集 九州大学法文学部 100 周年

法曹界や実業界、行政などさまざまな分野に多彩な人材を輩出している九州大学法学部。その設立は、1924（大正13）年9月25日の勅令第220号によって、九州帝国大学法文学部に教授8名、助教授2名、書記2名を置くことが決まりました。翌年に入学試験が行われ、202名が第1期生となりました。特筆すべきことは、法文学部初の入学試験に3名の女子が受験し、2名が合格しました。九州帝大史上初の女子学生の入学でした。

ちなみに、九州大学法学部同窓会報の題字は、法文学部第1期卒業生の具島兼三郎氏（元九州大学教授）に依頼して、書いてもらったものです。

戦後の1949（昭和24）年、法文学部から独立して法学部になりました。法文学部100周年を記念して、法学部のOB、OGなど6名の方に原稿を寄せていただきました。

100年をふりかえって 卒業式がなかった年

九州大学法学部東京同窓会会長
元最高裁判所判事

櫻井 龍子

私は1965年入学から、創設40周年頃になる。法学部学生のうち女性はわずか5名。何をやるにしても他の学生の目を気にしなければならぬ状態で、ずいぶん窮屈な思いをした。最近では4割が女子学生というから、本当に隔世の感である。



在学中の一番の思い出は、激しい学生運動が学内で展開され、そのために4年生になったら、授業がほとんど行えない状態になったことである。全国に大学紛争が広がり、はじめは大学の管理体制に対する不満、そのうち反体制運動、反安保闘争、そして学生運動の派閥争いにまで変化していった。貝塚線の電車を挟

んで各派が石のぶつけ合いをしたり、竹やりでつつきあった挙句、学生が血を流して倒れたのを目の当たりにした。

工事中のビルに米軍のジェット機が墜落したのもそんな中であつた。けが人はなかったとはいえ、九大のキャンパスに米軍機が墜落したという事実は、学生の心に激しい憤りを起こさせ、自然発生的に当時の板付飛行場（現福岡空港）への抗議デモが行われた。私も初めてデモなるものに参加して、滑走路の端っこに座り込み、着陸する飛行機めがけて「板付基地反対」と叫んだものである。

その翌年（1969年）の私達の卒業式は、挙行されなかった。学内の学長選挙で選んだ井上法学部長が、

本年度総会

◆日時 2024(令和6)年10月18日(金)
18:00 受付開始

18:30 総会・懇親会

◆場所 西鉄グランドホテル 2階「鳳凰の間」
福岡市中央区大名2丁目6-60
電話 092(771)7171

※参加申込は同封のハガキ、ホームページで受け付けています。

詳細は同窓会ホームページに掲載します。



昭和43年6月、建設中の電算センターに墜落した米軍機のファン
トム機（撮影…林崎价男、提供…九州大学文学部文書館）

攻撃に端を発する太平洋戦争が続く。昭和20（1945）年8月15日の我が国の敗戦により、皮肉にも米国進駐軍の管制下で日本国憲法が施行され、民主主義が定着して行く時代となるが、我が国は日米安保条約を締結し、米国の傘下で平和を保っていた。ところが日米安保条約の改定期の昭和33年頃から、日本全国に安保闘争と称する学生運動が展開され、九大も板付基地撤去運動として活発化した学生運動が、昭和43（1968）年6月2日の米軍機ファントム大型電算機センター墜落を契機に先鋭化することとなる。その頃私は、九大法学部2年生で、大学の授業がない空白の時間を約1年間、柔道と登山三昧で過ごした。

その様な状況でも、同窓の先輩方は後輩への思い入れ強く、九大法学部卒業生から司法試験合格者を多数輩出させたいと、答案練習の団体を作り九大松法会と名付ける。その中心となった人物が、中山茂宣弁護士（昭和36年卒）と吉野高幸弁護士（同年卒）です。毎年11月頃から翌年の3月上旬頃まで毎週日曜日、大講義室で答案練習会を実施、その結果、当時合格率2%と言われた旧司法試験で、毎年25人近くの合格者を輩出して来た。私自身も九大柔道部にて4年間柔道で心身を鍛え、九大を留年した昭和48年から本格的に同会で司法試験の勉強を始め、何とか30才に達した昭和53年に合格。現在、福岡県弁護士会会員として弁護士活動を続け、今年で43年目を迎える。



今社会では、中学高校生に対する「法律の背景にある基本的な価値観（正義公平）やルールを認識理解させ、紛争解決手段である司法制度を正しく活用する力を醸成し、民主主義社会におけるあるべき市民を育成するのを目的とする」法教育が推進されている。後輩達諸君にはとくに、自らの頭で考え自らの責任において行動できる自立した市民となり、社会に対して積極的に責任ある行動をとる事が期待される。我が九州大学法学部が創立100周年を迎えた今日、今後、法曹の世界へは元より、日本社会の各地でリーダーシップを発揮して御活躍して戴きたい。

学生運動に親和的であるなどとして文部省の承認するところとならず、抗議のため学長不在の卒業式は行わないという大学側の決定に、学生たちも賛同したのであった。当日は、学部ごとに謝恩会のようなものを催しただけで、卒業証書は学長が決まった後、翌年1月にそれぞれに郵送されてきた。

こんな話を東京同窓会でちょっと口にしたら、後輩たちにいたく関心を持たれ、コロナ禍の中のオンライン同窓会のいい話題となった。歴史を語り継ぐ必要性を実感したものである。法文学部が次の100年にどんな歴史を刻んでいくのか興味は尽きない。

.....

創立100周年を祝い、 後進への期待！

九州大学法学部同窓会会長

羽田野節夫

本年、九州大学法学部が大正13年（1923）4月に九州大学法文学部の一環として創立されて以来、百周年を迎えた。ここに祝意を表する。

法文学部設立の頃、世界では1919年6月ベルサイユ条約の締結により第一次世界大戦が終結、我が国では政党政治が確立されたが、その後、日中戦争、第二次世界大戦、昭和16年（1941）年12月8日の真珠湾

法学部の90年史から 100年史へ

九州大学大学院法学研究院教授

西 英昭



かつての学び舎だった箱崎キャンパスの文系校舎

1924年9月25日、勅令第224号によって、九州帝国大学内に法文学部が設置されることが発令されました。

爾来、幾星霜を経て2024年9月25日、九州大学法学部は100年の節目を迎えることとなります。

既に全学百周年にあたる2011年の前後より『九州大学百年史』の編纂が進められ法学研究院部局史については2014年8月31日付でネット公開、それを元に更に校訂を加えた「九州大学法学部・法科大学院の歩み：1924年（法文学部創設）から2012年まで」を『法政研究』第81巻第4号（2015年3月）に掲載しております。（https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1498335/pa758.pdf）。

その後九州大学法学部百年史編集委員は一旦解消となり、資料収集保存委員会として活動して参りましたが、この度再度編集委員会が組織され2012年以降の歴史を書き継ぐこととなりました。90年史から100年史へということになりますが、この10年は箱崎から伊都へのキャンパス移転、相次ぐ大学改革、さらには新型コロナの蔓延と正に激動の10年でした。

現在、関係資料を基に当時の部局長等ご活躍頂いた先生方にお話を伺いつつ、法学研究院（法学府・法学部含む）及び法科大学院につきまして記述を進めております。

この10年分の「補遺」は、『法政研究』第91巻第4

号（2025年3月刊行予定）に掲載の予定です。掲載後程なくネット上にてPDFを公開する予定にしています。特に若い同窓会員の皆様には学生時代を思い出しつつ、また最近の法学研究院の状況について知って頂く縁として、御高覧を賜れますれば委員会一同これに過ぎる喜びはございません。よろしくお願い申し上げます。



福岡市西区の伊都キャンパス。文系校舎は最後に完成した

九州大学法文学部創立100周年 記念式典のご案内

下記のとおり開催いたします。どなたでも参加いただけますので、ぜひお越しください。

日時：2024年11月16日（土） 午後1時から
会場：九州大学伊都キャンパス 椎木講堂 コンサートホール

次第：

- （第一部）1. 開式、2. 主催者挨拶、3. 来賓祝辞
（第二部）1. 現在の六本松の姿（映像）、2. 「第九」日本人初演100周年記念に関する講演
（第三部）1. 法学府国際コース修了生祝辞、2. 旧箱崎キャンパスVR映像、3. 箱崎の現在と未来（映像）、4. モニュメント・パフォーマンス（制作者挨拶、映像）、5. 記念事業実施委員会委員長挨拶、6. 閉式

※式典終了後、イースト2号館にて各種イベントを予定。
※現時点での予定です。諸事情により変更になる可能性がありますことをご了解ください。

詳細は、以下をご参照ください。

九州大学法文学部創立100周年WEBサイト

九州大学基金WEBサイト



問合せ：九州大学人文社会科学系事務部総務課
電話：092-802-6302・6305・6320

六本松リーガルパークについて

九州大学大学院法学研究院教授

上田 竹志

九州大学旧六本松地区は、1921年の旧制福岡高等学校設置から、2009年の伊都キャンパスへの移転まで、約90年にわたり、多くの学生が青春を過ごしてきた場所です。今でも、六本松交差点に近い一角には、九州大学教養部キャンパス内にあった「青陵乱舞の像」が置かれています。

ただ、上記の像を除けば、現在の六本松地区に昔日の面影を見出すことは難しいようです。かつての六本松キャンパスの、薄暗く背の低い校舎群は跡形もなく、今では晴れがましく背の高い商業施設やマンション・福岡市科学館などが通りに面し、その奥には、福岡簡易裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・高等裁判所、福岡地方検察庁・高等検察庁、福岡県弁護士会の建物が三方にそびえ、九州地方の司法機能の主要機関が集中する、全国的に見ても珍しい一大リーガルパークとなっています。

さて現在、六本松には九州大学法科大学院があります。商業ビルの一角にひっそりと収まっているので、

教養部キャンパスから六本松交差点近くに
移設された「青陵乱舞の像」



見た目にはなかなか分かりませんが、法科大学院の存在によって、九州大学にはまだ「六本松地区」があり、かつ、九州大学は、上記リーガルパークの一翼を構成していると言えます。

九州大学法科大学院は、日常的に法曹三者（裁判官・検察官・弁護士）とふれあい、司法実務の現場を見て学べるという地の利を存分に生かし、カリキュラムの中でも、法曹三者による授業や、若手弁護士による課外講座などを提供しつつ、法曹養成教育を行っています。すでに、九州地方における法曹養成の中心地として、2017年以降、148名の司法試験合格者を輩出しています（2006年度からの累計では561名）。

今も六本松地区に残る学問の香りと、新たな法の風を感じたい方は、ぜひ六本松をご訪問ください。

（なお、九州大学法科大学院は、法学部との連携強化のため、2027年4月に、伊都キャンパスへ移転する予定です。）



新しいエリアになった六本松リーガルパーク
（丸部分が九州大学法科大学院）

思いがけない 九大法文学部との縁

大阪大学大学院法学研究科教授

福井 康太

私は、1991年九大法学部卒業、98年博士課程修了で、現在大阪大学で教職に就いております。九大法学部、そして法学研究科（当時）では大変お世話になりました。以下、九大法学部出身ということが、意外なところで縁となったことを書きます。



地方勤務を経て、大阪に移り住み、しばらく一人暮らしをしていたのですが、2年ほどしていまの妻と知り合いました。なじみのない土地なので単なるお付き合い以上に関係が発展するのは難しいと思っていたの

ですが、妻の一家とは九大法文学部と意外な縁があったのです。

妻の祖父は明治生まれの人で、旧制天王寺中学、旧制大阪高校を出ているのです。このルートであれば、京都大学に進学するのが一般的だったと思うのですが、時代もあり、妻の祖父は九大法文学部に進学しました。「都落ち」などと記録に書かれていたのはご愛敬。その後、妻の祖父は出征し、かなり長く兵役についていました。帰還してからしばらくして一念発起し、博士論文を執筆し、九大法文学部から博士号（経済学博士）を授与されています。その後、国際綿花評議会（IIC）理事として活躍しました（最後はSpecial Consultant）。

私も九大法学研究科から博士号を授与されています。結婚する前、妻の両親に挨拶に行くと、九大出身ということで本当に大事にされ、あっという間に結婚が決まりました。こういうことを縁というのだろうかと思いました。妻の祖父は出会った当時すでに亡くなっており、直接会ってはいないのですが、私の祖父（京都大学法学部卒）とも共通の知り合いがいるなど、いろいろな接点がありました。

縁というものは不思議なものです。九州大学法学部を出たことを誇りに思っております。



かつての箱崎キャンパス。左下の口の字型の建物が「法文学部」だった。右上の建物が大学本部（写真は1992年版の「九州大学法学部同窓会名簿」から）

現在・過去・未来をつなぐ、 詩×造形のモニュメント

演劇空間ロッカクナット・アートマネージャー
菅本 千尋



建築家の原良輔さんとアートマネージャーの菅本千尋さん

この度は法文学部 100 周年記念プロジェクトにご選出いただき、誠にありがとうございます。

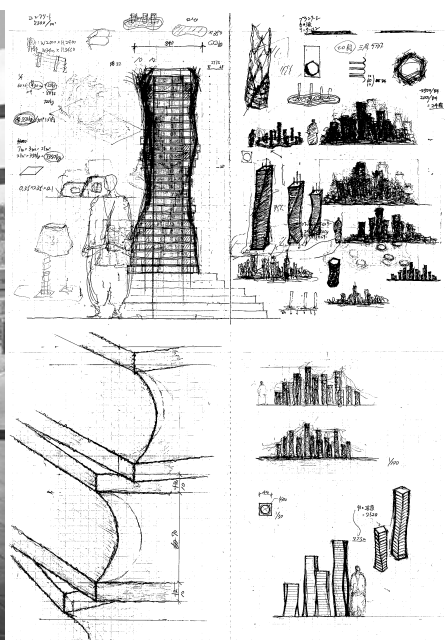
本作品は演劇と建築を得意分野に活動するアーティストコレクティブ「演劇空間ロッカクナット」より、建築家の原良輔、アートマネージャーの菅本千尋の共同により製作いたしました。製作にあたっては菅本が

現地調査・文献調査を行い、作品のコンセプトとして詩を執筆、原が造形をつくるというプロセスを踏んでいます。

調査のなかで、女性が大学で学ぶことが一般的ではなかった 1925 年当時、法文学部は 2 名の女学生を受け入れていることを知りました。このように、属性に関わらず能力や熱意によって門戸を開く姿勢は、多様性を推進する現在の九州大学のあり方の“根”にあるのだと思います。今回、九州大学の“根”を、竹の地下茎のあり方（地上からはバラバラに見える竹が、地下では根のような茎を共有していて、同じ出自であることがあります）と結びつけ、竹を用いた作品としました。

また私たちは共に箱崎キャンパスの最終年を経験しています。しかし当時は全く知り合いではなく、その後とある巡り合わせで出会い、いま一緒に作品をつくっています。このような不思議な縁は、先輩方、同級生、後輩の皆さんにこれからも起こっていくのではないのでしょうか。箱崎キャンパスの噴水のように、伊都キャンパスではモニュメントが“共通の記憶”として作用しますように。地下茎を持つ竹のように、同じ九州大学という出自をもつ学生が様々な進路を自ら選択できますように。

モニュメントが現在・過去・未来をつなぐ、“待ち合わせ”の場としてあることを願います。



法文学部 100 周年記念プロジェクトに選出された作品「待ち合わせ」。竹の地下茎のようにつながっていることを表現している

法文学部創立 100 周年記念イベントへのご招待

九州大学法文学部創立 100 周年を記念して、来たる 11 月 16 日 13 時から、九州大学伊都キャンパス椎木講堂コンサートホールならびに同イーストゾーンにて、記念イベントを行います。新たに設置されるモニュメントのお披露目をはじめ、今は無き箱崎キャンパスを、九大人間環境学府建築学科の最新技術を使って映像で甦らせるなど、九州大学の過去と未来を結ぶ多数の企画を、現在、鋭意準備中です。

また 2024 年は九大フィルによるベートーヴェン作曲交響曲第 9 番「歓喜の歌」第 4 楽章の日本人初演からちょうど 100 年にあたり、法文学部と同じ年月を重ねてきたこととなります。このご縁から、長く九大フィル顧問を務められた松村晶工学部名誉教授（現久留米高専校長）に「100 年前の福岡のできごと～「第九」日本人初演を中心に」と題するご講演もお願いしています。

さらに本年は、日本初の英語だけで教育を行う法学修士のプログラム LL.M. が九大に設置されて 30 年の年にも当たります。同 LL.M. は展開を続け、博士課程や政治学のプログラムを包摂する国際コースとして、これまで世界 62 カ国から留学生 798 人を受け入れ、優秀な人材をグローバル社会に輩出してきました。11 月 16 日には同コースの修了生も母校に集まり、同窓生として共に法文学部設立 100 周年を祝います。なお、11 月 15 日にはアクロス福岡で国際コース主催の記念

シンポジウム開催の予定ですので、ご興味がおありの方は下記 URL をご参照ください。(http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programs/english/symposium/)

「六本松キャンパスがなくなり、箱崎から伊都に移転して、九大が遠くなった」「日本最大級という伊都キャンパスを一度見てみたいが、機会がない」とお考えの同窓諸兄姉は多いのではないのでしょうか。実際、福岡市中央区と同じくらいの広さを誇るキャンパスは、気軽に回れるものではありません。今回のイベントでは、時間限定ではありますがバスでのキャンパスツアーも用意していますし、法学部同窓の藤井徳夫先輩のご寄付によるフジイギャラリーや、4 層吹抜け構造が印象的な中央図書館もご覧いただけるよう交渉中です。加えてイーストゾーンでは実際のモニュメントをご覧いただける他、生協ショップも特別に開店し、九大グッズの販売を行います。

法文学部創立 100 周年にあたっては、法学部同窓会の貢献が突出していることは、衆目の一致するところとす。とりわけ、本号にご寄稿いただいた櫻井龍子先輩、羽田野節夫先輩には一方ならぬご尽力をいただき、あわせて法学部同窓会を財政的逼迫から救っていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

ぜひ、お誘い合わせの上お出かけください。そして九大法学部の次の 100 年への第一歩を、法学部同窓生そろって記そうではありませんか。

(平成 2 年卒 五十君麻里子)

 **大和自動車交通株式会社**
DAIWAMOTOR-TRANSPORTATION CO., LTD. 東証スタンダード上場

代表取締役社長 大塚一基 (昭和 59 年卒業)
タクシー配車 (東京 23 区・武蔵野市・三鷹市) (株)
・ 03-3563-5151
・ 配車アプリ S.RIDE

羽田野総合法律事務所 TEL092-715-5251

転ばぬ先の杖！相談はお早めに！

弁護士 羽田野 節夫 (九大法 S48 年卒)
同 羽田野 桜子 (九大法科大学院 H20 年卒)
同 中村 考伸 (早大法学部 H18 年卒)
同 森山 秀徳 (九大法 S54 年卒)
同 平田 亘佑 (九大法科大学院 R2 年卒)

 **Nishitetsu Group**

西鉄天神大牟田線・貝塚線開業 100 周年

西鉄 九大法学部同窓生 一同

 **FUJICO**

第三の太陽電池
小型円筒形発電デバイス

フジコーは蛍光灯サイズの円筒形太陽電池である「小型円筒形発電デバイス」を提案しています。

株式会社フジコー 代表取締役社長 萩尾 寿昭 (1995 年卒)

支部だより

例年にも増して充実の懇親会

— 東京同窓会 —



南野森教授の講演(学士会館320号室)

令和5年11月15日(水)、学士会館320号室において法学部東京同窓会総会・講演会が開催されました。今年、参加者67名、商法ゼミ9名の現役生が加わり年齢層の若い人の集いになりました。講演会は南野森教授による「憲法とは何か」という演目で、憲法の本質に迫る内容を、分かり易くも軽快なトーンでお話しして頂きました。懇親会では、羽田野節夫様より来賓代表の挨拶を、3年目となった寄附講座で講義いただいた衆議院議員鬼木誠様には、講義の様子を語っていただきました。

また、法文系学部創設100周年を来年に控えて法文系キャンパスのオブジェの公募プロセスを五十君麻里子教授より紹介して頂くなど、例年にも増して充実した内容の懇親会となりました。

新入会員歓迎会に14名参加

恒例の新人歓迎会を令和6年4月20日(土)、有楽町の九大オフィスで開催しました。総勢14名の新人



新入会員の自己紹介の様子(有楽町の九大オフィス)

の皆様にお集まりいただき、冒頭、櫻井龍子会長から新人会員に向けたお言葉をいただいた他、懇親会の中では東京での暮らしに関する話題から、将来のキャリアについてまで、諸先輩方からの実体験を交えたアドバイスが飛び交う充実した会となりました。

(文責 法学部東京同窓会事務局次長 田中博子)

九州大学法学部東京同窓会事務局
〒102-0054 東京都千代田区神田錦町3-28
学士会館B1 九州大学連絡事務所内
TEL,FAX : 03-5283-8510
E-mail kyudaihogakubudosokai@gmail.com

支部長が「九大専門家集団(仮称)」を提言

— 関西支部 —

2024年6月1日、関西同窓会総会を開催しました。参加者は来賓含めて25名、S44～H26年卒まで幅広い層からの参加でした。総会の冒頭、本田支部長より組織面・財政面からの課題が提示され、対策として新たに、「九大専門家集団(仮称)」を立ち上げし、同窓会会員や関係先の課題解決を支援する活動をスタートすることが提言されました。



幅広い年代の人たちが集った関西支部

その後、九州大学大学院法学研究院の五十君教授より「九大法文学部創立100周年記念プロジェクト」の講和があり、支援の呼びかけもありました。同窓会本部より羽田野会長、東京同窓会より小林事務局長、経済学部より中野顧問にも来賓として参加頂きました。

懇親会では、参加されたお一人おひとりから近況報告やご意見を頂戴し、話題も多岐にわたり、最後は予定の時間をオーバーしてしまいました。

会員増強の件では、東京同窓会が若手に役員を早期に引き継いで会員増強に繋がったと聞くことができました。関西も参考としていきたいと考えています。

昨年も感じたのですが、同窓会活動には、諸先輩方と交流することで、多くの経験や知識に触れる機会があり、若手や中堅の皆様にも、そこで、より良い人生を送るヒントを得られるのではないかと強く感じています。現在、現役で活躍中の若手の皆さんに「是非参画を！」と呼び掛ける次第です。

(平成7年卒 上野伸一郎・新事務局長)

関西支部事務局

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目5番7号
三旺ビル203号 稲吉法律事務所内
TEL: 06-6585-0177 FAX: 06-6585-0178
E-mail: info@ii-lawoffice.jp

恒例の九大検定に一喜一憂

— 広島支部 —

2023年12月3日、セラトングランドホテル広島にて第42回広島地区九大法・経同窓会総会・懇親会を、法学部から16名、経済学部等から10名の同窓の皆さまのご参加により、開催いたしました。

総会では、荻田知英会長（昭和47年法卒）からご来賓の出席への御礼の後、来賓の法学部同窓会事務局長の五十君教授、経済学部同窓会学内理事の清水教授をご紹介します。挨拶をいただきました。懇親会では、若手の同窓生を中心に広島支部恒例の九大検定を開催。来賓の含め、九大の最近の様子や歴史を振り返る問題、福岡と広島にちなんだ問題などに挑戦しました。これまではテーブル単位で相談し回答する団体戦でしたが、今年は個人戦を実施。お酒で柔軟になった脳をさらに活性化させて考えておられましたが、なかなか難しい問題もあり、答え合わせでは一喜一憂する様子で、皆さん和気あいあいと大いに盛り上がりました。最後に恒例の「松原に」を斉唱し、お開きとなりました。

事務局では、これからも多くの卒業生に当支部の総会・懇親会へご出席いただき、九大卒業生の交流の輪を広げていただきたいと考えています。今後、当支部の活動を盛り上げていくため、若手の同窓の皆さまが一層、参加しやすい企画を検討しているところです。

今年も例年と同様の時期に開催したいと考えていま

す。皆さまお誘いあわせのうえ是非ご参加ください。

【参考】広島地区九大法・経同窓会 会員数（2024年6月現在）法学部123名、経済学部88名、計211名

(2001(平成13)年法卒 江美慎一郎)



大いに盛り上がった広島支部同窓会

広島地区九大法・経同窓会事務局

〒730-8701 広島市中区小町4番33号
中国電力株式会社内 江美（平成13年法卒）
E-mail: hiroshima.kyudai.h.k.dosokai@gmail.com

熊本支部事務局

〒860-0016 熊本市中央区山崎町66番7
熊本中央ビル4階 熊本慶徳法律事務所内
TEL: 096-342-5640 FAX: 096-342-5641
E-mail: mulawyer8810jp@gmail.com

◎同窓会費納入のお願い～各種 Pay 振込も可能～◎

2024年の会費を受け付けています（1年ごと2,000円です）。コンビニエンスストアと郵便局に加え、各種 Pay 振込も可能になりました。申し訳ございませんが、手数料は会員の皆様のご負担でお願いいたします。ご協力を何卒、よろしくお願いいたします。

世界23カ国の法学部長を集めて国際会議を開催

2024年2月5日から8日、九大を開催校に Law Schools Global League の冬季会議が開催された。法学教育と最先端技術をテーマとする学術大会や、20周年を迎えた日本の法科大学院制度、法分野における多様性問題を取上げるなど、世界の加盟校から約60名の参加者を迎えて充実した会議が行われ、最終日は長崎を訪問、参加者から極めて高い評価を受けた。

法曹コースは1期生から上々の成果 九州地区の司法システムを下支え 大脇成昭法科大学院院長に聞く

2024年4月、九州大学法科大学院長に就任した大脇成昭教授。法科大学院を取り巻く大きな変化の中で、九州の基幹法科大学院としての役割を果たすために、さまざまな取り組みを行っています。大脇教授に、現在の状況やこれからの取り組みなどを聞きました。

— 2004年度に始まった法科大学院制度。さまざまな変革の中で法科大学院設立20周年を経て、21年目を迎えました。九州の基幹大学といえる九州大学法科大学院の役割についてお聞かせください。

大脇 制度発足時に7校あった九州・沖縄地区の法科大学院は、九州大学法科大学院を含めて3校となりました。様々な面で環境が変化する中で、本学は安定的に法曹実務家や法務人材を輩出し続け、主に九州地区における司法システムを下支えする重要な役割を担っています。

2027年度に伊都キャンパスに移転

— 現在の九州大学法科大学院は、かつての六本松校舎があった場所に、法曹関連施設（裁判所、検察庁、県弁護士会館）とともにあります。そして2027年度からは伊都地区キャンパスへの移転が決まりました。

大脇 六本松の立地は、様々な面で法曹実務家のご支援を得るのに適しており、また学生の法曹に対する憧れや意欲を喚起し続けることに貢献しています。伊都地区移転後は、これらの利点を様々な方法で継承する工夫をするとともに、私たち法学部担当の教員が、日常的に法科大学院生の学修支援に注力できるような方策を考えてゆきます。

— 2022年度からは法曹コースの修了者が入学しています。また未修者コースの方もいます。そのような中で、どのような工夫をされていますか。

大脇 法曹コース修了者の受け入れについては、2023年から始まった司法試験の在学中受験で合格者を出すなど、一期生から上々の成果を挙げています。合格者の学修ノウハウやスキルを他の学生にも波及させることで、未修者教育などの底上げを図り、全体としてのレベルアップを目指しています。



法曹をめざす皆さんに「ここで学びたい」と思ってもらえるように努力することが大事と大脇教授

強みは効果的できめ細かな教育

—九州大学法科大学院ならではの教育の特色があると思います。

大脇 形式面では、多すぎず少なすぎない「絶妙に適度な」規模による教育の実現が本学の特色です。私たち教員、実務家である学外の先生方、そして学生の、相互の距離が適度に近く、効果的できめ細かな教育ができてるのが強みです。

—九州大学法科大学院のこれからの役割や課題があればお伺いします。

大脇 司法試験合格率の改善を図り、より多くの方々に「ここで学びたい」と思ってもらえるように努力を続けることが大事です。九州における基幹大学としての使命を胸に、伊都地区移転後も見据えて、教育内容のより一層の充実化を図りたいと思います。

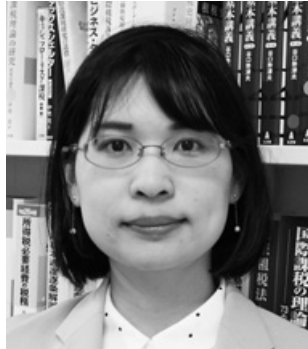
—最後に簡単なプロフィールや趣味、これから目指したいこと（私的なことでも公的なことでもどちらでも可）があれば、簡潔に記載をお願いします。

大脇 1972（昭和47）年4月生まれ。大阪府立北野高校から九大法学部（H8卒）。世の中の森羅万象が研究対象となりそうな面白さに惹かれて、行政法・大橋ゼミへ。2001年から17年間、熊本大学で研究・教育に従事したのちに、九大の教員に。現在は行政法の中でも主に、公財政にかかわる規範や災害法について研究。

【新任教員の自己紹介】

「当たり前」を疑う

2024年4月に本学に着任した山田麻未です。奈良県出身で、京都の大学に進学したものの、大学院を出るまでほぼ奈良で過ごしました。大学院終了後は、愛知県犬山市にある名古屋経済大学に就職しました。奈良県に



公法・社会法学講座
山田 麻未

は海や空港がありません。福岡に来て、通勤途中に海が見えること、飛行機がとても低い位置を飛んでいること、そして風がとても強いことに驚きました。他方で、伊都キャンパスは自然に囲まれていて、しかも古墳があるなど、とても親しみやすい環境です。

私の専門は租税法です。学部では、租税法の講義とゼミを担当しており、また、法科大学院でも租税法の講義を担当しています。学生からの質問にハッとすることも多く、日々刺激を受けております。

学生の皆さんには、ぜひいろいろな人と交流して恥ずかしがらずに自分の意見を述べ、他者の考えを聞き、自分にとっての「当たり前」を一度は疑って考えてほしいと思っています。ゼミや授業でそのような機会を学生に提供できるよう、工夫したいと思います。

同窓会事務局からのお知らせ

◎重要 会報郵送の一部停止に関して◎

法学部同窓会は、1975年に結成され、以降、毎年9月の同窓会報の発行、10月の総会の開催、支部活動など、同窓生の皆様のつながりの場となれるよう、同窓会活動を継続して行って参りました。しかし、残念ながら弊会の活動の唯一の財源である会費収入が年々、減少しており、活動の継続が困難となってきております。つきましては、同窓会報の郵送を次号より一部取りやめさせていただきます。なお、会報等の案

内をメールで送付して良い場合は、同封のハガキにてメールアドレスと送付希望のご登録をお願いします。何卒、ご理解のほどお願いいたします。

現行：卒業生全員（住所が判明している方）に郵送
→次号より：**昭和60年以前の卒業生全員（住所が判明している方）、および昭和61年以降の卒業生で年会費の納入をいただいている方に郵送**

ご寄附のお礼

法文学部100周年を記念し、櫻井龍子様、羽田野節夫様、4名の卒業生様より本会にご寄附をいただきました。厚く御礼申し上げます。

教員一覧

教員名	専攻
赤坂 幸一	教授 憲法
浅野 雄太	准教授 民事訴訟法・倒産法
荒 達也	准教授 商法
五十君麻里子	教授 ローマ法
出水 薫	教授 政治学
井上 宜裕	教授 刑法
入江 秀晃	教授 紛争管理論
上田 竹志	教授 民事訴訟法
江口 厚仁	教授 法社会学
遠藤 歩	教授 比較法
大賀 哲	准教授 国際政治学
大脇 成昭	教授 行政法
岡崎 晴輝	教授 政治理論・比較政治学
笠原 武朗	教授 商法
香山 高広	准教授 民法
川崎 邦宏	准教授 商法
川島 翔	准教授 西洋法制史
木村 俊道	教授 政治学史

教員名	専攻
熊野 直樹	教授 政治史
小池 泰	教授 民法
小島 立	教授 知的財産法、文化政策、科学技術イノベーション政策
七戸 克彦	教授 民法
嶋田 暁文	教授 行政学
新屋敷恵美子	准教授 労働法
鈴木 崇弘	准教授 行政法
S・ヴァンアーツル	教授 国際競争法
高岡 大輔	准教授 民法
高橋 雅人	准教授 憲法学
武内 謙治	教授 刑事政策、少年法
田中 孝男	教授 行政法
田中 教雄	教授 民法
田淵 浩二	教授 刑事訴訟法
寺本 振透	教授 知的財産法、社会ネットワークと法
徳本 穰	教授 商法
富川 雅満	准教授 刑法
豊崎 七絵	教授 刑事訴訟法

教員名	専攻
中島 琢磨	教授 外交史
成原 慧	准教授 情報法
西 英昭	教授 中国法、台湾法、東洋法制史
西村 友海	准教授 法哲学、法情報学
野澤 充	教授 刑法
蓮見 二郎	教授 政治学
韓 相熙	教授 国際関係法
福原 明雄	准教授 法哲学
堀野 出	教授 民事訴訟法
M・フェニック	教授 Criminology
松井 仁	教授 実務法学（弁護士）
丸谷 浩介	教授 社会保障法
南野 森	教授 憲法
八並 廉	准教授 国際私法、国際取引法、国際文化遺産法
山口 道弘	准教授 日本法制史、日本史学史
山下 昇	教授 労働法
山田 麻未	准教授 租税法
柳 愛林	准教授 政治思想史

2023年度 進路先一覧

卒業生 192名(うち女子72名) 進学 30(9) 企業等 86(32) 公務員 48(24) その他 28(7)

2024年5月1日現在、右欄は女子で内数

企業	人数	
CURIOUS PRODUCTIONS	1	1
DYM	1	
EYストラテジー・アンド・コンサルティング	1	1
JFE エンジニアリング株式会社	1	
NTT ドコモ	1	1
RECCO	1	
SMBC 信託銀行	1	1
WAVE	1	1
アサヒビール	1	
麻生塾	1	
アドバンスト・メディア	1	
英進館	1	1
駅前不動産ホールディングス	1	
エル・ティール・エス	1	1
大塚商会	1	
鹿児島銀行	1	
鹿児島建設	1	
兼松	1	
九州大学	1	1
九州電力	4	
九州旅客鉄道	1	
京都中央信用金庫	1	
コスモウェーブ	1	
西部ガス	1	1
西部ガスホールディングス	1	
ジェイエア	1	1
清水建設	2	2
社会福祉法人恩賜財団済生会唐津病院	1	
商工組合中央金庫	2	
住友生命保険	2	
ソフトバンク	1	1
第一生命保険	1	
中国電力	1	
ディスコ	1	
トイディア	1	
東京海上日動火災保険	2	2
東京海上日動システムズ	1	
トライグループ	1	1
南国殖産	1	
西日本シティ銀行	2	1
西日本電信電話	1	1
ニトリ	1	
日本コープ共済生活協同組合連合会	1	1
日本信号	1	
日本製鉄	2	1
日本生命保険	2	1
日本電気	1	1
日本年金機構	4	1
日本貿易保険	1	
日本郵政	1	1
ファーストリテイリング	1	
福岡銀行	4	2
プラスアルファコンサルティング	1	
ベイカレント・コンサルティング	1	

星野リゾート	1	
三井住友銀行	1	
三井物産	1	
三菱UFJ銀行	2	2
三菱ガス化学	1	1
明治安田生命保険	3	1
ゆうちょ銀行	1	1
リクルートマネジメントソリューションズ	1	
りそな銀行	1	
レバレジーズ株式会社	4	1
計	86	32

公務員	人数	
会計検査院	1	1
総務省	1	
外務省	1	
農林水産省	1	
国土交通省	1	1
九州運輸局	1	
国土地理院	1	
航空管制官	1	1
九州農政局	1	1
九州経済産業局	1	1
福岡労働局	3	3
陸上自衛隊幹部候補生学校	1	
海上自衛隊幹部候補生学校	1	
広島高等裁判所	1	1
福岡地方裁判所	3	
福岡家庭裁判所	1	1
佐賀地方裁判所	1	1
宮崎地方裁判所	1	1

鹿児島地方裁判所	2	
家庭裁判所	1	1
裁判所	2	2
福岡県	2	2
福岡県警察	1	
長崎県	1	1
大分県	2	
鹿児島県	2	1
香川県	1	
山口県	2	
福岡市	2	2
北九州市	2	1
久留米市	1	1
広島市	2	1
大分市	2	
東京都	1	
計	48	24

進学	人数	
九州大学大学院法学府	8	1
九州大学法科大学院	8	6
大阪大学法科大学院	2	
京都大学法科大学院	2	1
東京大学法科大学院	1	
慶應義塾大学法科大学院	1	
一橋大学法科大学院	2	
神戸大学法科大学院	2	
名古屋大学法科大学院	2	1
京都大学公共政策大学院	1	
熊本大学大学院社会文化科学教育部	1	
計	30	9

九州大学法学部同窓会収支報告書			
2022(令和4年)年9月1日～2023(令和5)年8月31日			
◎経常会計			
収入		支出	
事項	令和4年度決算	事項	令和4年度決算
前年度繰越	1,473,525	会議費	0
年会費	1,934,562	会報費	145,550
準会員会費	134,000	会員情報管理費	124,597
預金利息	11	印刷費	642,400
懇親会残金	0	発送費	715,204
寄附金	1,100	発送手数料	175,808
		補助金	410,000
		旅費	134,068
		謝金	10,000
		通信連絡費	69,537
		消耗品費	3,107
		会費振込手数料	83,842
		雑費	199,331
		計	2,713,444
合計	3,543,198	次年度繰越	829,754
		合計	3,543,198

《編集後記》

☆九大法学部創設の1924年、西鉄大牟田線・貝塚線の運行が開始され、「第九」の日本人初演も行われたという。節目の年の巡り合わせ。関東大震災の影響少ない九州で、大正デモクラシーが最後の輝きを放ったのか。(M.I)

☆今号も皆様のご協力で発行することができました。法文学部創立100周年に寄せて原稿を執筆いただきました卒業生の皆様・先生方、

広告にご協力いただきました卒業生の皆様、各支部の皆様へ感謝申し上げます。(A.Z)

☆「九州大学法文学部」が創立100周年。かつての箱崎キャンパスにあった法文学部の校舎は、重厚な建物でした。以前、同窓会報の取材で建物内を見学したときのことを思い出します。(K)